

は、日常生活に必要な語句を理解し、その使い方を正すことに目をむけられているから、用例、用法などを中心に文脈の中でいきいきとことばをとらえさせると同時に、その理解を確実にする方法として、語の意味をはつきり説明できるように訓練しておくことが望ましい。

(3) ② 読む(文、文章)

この学年でもっとも重点的に指導する内容といえば、「書いてあることのだいたいや、筋について考えながら読むこと。」とされている。何が、どうして、どうなったということをしつかりおさえることである。

問題二

文章の内容をつかむ問題であるが、58.6%と正答率が低い。

けんちゃんは、ぼくたちのくみで、いちばんちいさいです。

でも、かけっこはいつも一とうです。どうしてはやいかなあと、みんなけんちゃんの足をみました。

べつにみんなの足とちがったところは、ありません。

1. けんちゃんの足はくみでいちばんちいさいこと。
- ② けんちゃんはくみでいちばんかけっこがはやいこと。
3. けんちゃんはくみでいちばんよいこどもであること。
4. けんちゃんの足とみんなの足のこと。

誤答のうち、1に○をつけた児童がもつとも多い。これは、冒頭の文の「けんちゃんは、ぼくたちのくみで、いちばんちいさいです。」というところにとらわれてしまったのではないかと思われる。「○○は○○です。でも○○です。」といった文形をとらえればわかることであるが、読解指導でぜひとりあげていきたいことである。

ところで予備テストの段階での正答率は43%

であった。

問題四

主述関係の理解をみる問題である。

1の問の45%の正答率は、他のものに比して低い。

うちの子うしは、白とくろのまだらです。もうつのがはえかけています。……(以下略)

1. 子うしのいろのようすをぶんのなかのことばをつかかってかきなさい。
2. 以下略

この1の問に対して、「白とくろ」とだけ答えたものが、誤答者の大部分である。出題の意図は「白とくろのまだら」と答えさせることをねらったのである。しかし、「まだら」ということばの意味がわからなかつたのかも知れない。A出版の一年の教科書の教材の一節であるので、むずかしい要求ではないと思う。

問題六

文章をくわしく読み、場面をとらえるというねらいをもつ問題。

1. よし子さんとまさるさんは、どこからかもつれっしやをみましたか。
㊦ れっしやの中から
イ いえの中から
ウ ホームから

この問に対して、全体の三分の一の児童が「ウ」ホームからと答えている。

「ホームに、れっしやがいきおいよくはいつてきました。」の昌頭文が、まず児童の意識につよくはいつてしまったと思われる。「のりこんで…まどからそとをみました。」という文をよみとれば、「ウ」の項目には反応しないのではないかと

だれが、どこで、なにをというをいつでも考えるようにさせたい。

2の問の、かもつれっしやにつんであるもので、二人が見たものは何かということでは、「あ、うしがのっている。」「あつ、バスも。」という